

大学の世界展開力強化事業(平成27年度採択) 山形大学 取組概要

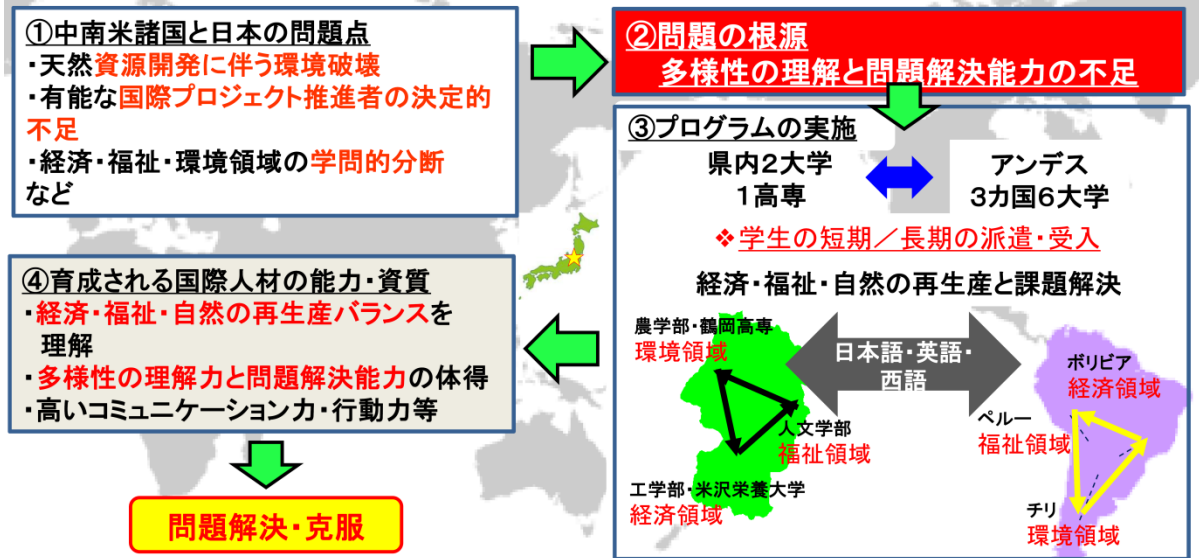
【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(中南米))

「山形・アンデス諸国」ダブル・トライアングル・プログラム

【事業の概要】

本事業は、山形大学のこれまでのアンデス諸国における高い研究と教育実績・経験を基礎として、山形とアンデス諸国の架け橋となる人材育成を行う。山形県内の3つの教育機関(山形大学、米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校)と、ペルーの4大学(ペルー・カトリカ大学、国立工科大学、国立サンマルコス大学、ラ・モリーナ国立農業大学)、ボリビアの1大学(サンアンドレス・ボリビア国立大学)、チリの1大学(国立タルカ大学)との間で、短期・長期交換留学(日本人学生とアンデス諸国の学生の相互交流)、アンデス諸国と日本における語学教育(日本語とスペイン語)、就職支援、異文化理解などを実施する。日本企業に就職を希望する留学生に対しては、山形大学の高い実績と経験を活かして特に県内企業への就職を促す。

問題解決力を身に付ける教育プログラム



【交流プログラムの概要】

短期受入学生は日本人学生と合同研修を行い、日本文化や日本ビジネス、工業技術、環境保全、産業開発等について、3カ国語(西・英・日)で学習する。長期受入学生は、その他に企業就職レベルの日本語を学び、日本企業に1~2週間程度インターンシップを行う。短期派遣学生は、アンデス諸国における資源開発の現状や問題点、日系社会への理解、環境保全への対応等の教育を行う。またこれまでの山形大学の研究フィールドにおいて実践型学習を行う。長期派遣では、アンデス諸国の参画校において正規科目の学習と単位修得を行う。

【本事業で養成する人材像】

経済・福祉・自然の再生産に関するバランスが取れ、多様性を理解し、3カ国語(日本語・英語・スペイン語)の運用能力とコミュニケーション力に長けた人材。また行動力とバイタリティに溢れ、資源開発と国際協力活動に積極的に取り組み、リーダーシップを発揮してプロジェクトを企画・実施できるブリッジ人材。

【本事業の特徴】

アンデス諸国で長年、研究・教育を実施してきたフィールドを、日本人学生の派遣時にそのまま学習・研修の場として活用できることならびに留学生の受入れに関して各学部(人文学部(山形市)、工学部(米沢市)、農学部(鶴岡市))の学問的特長や資源を活用することで、多様性の理解と問題解決力を実践型で学び、高いコミュニケーション力と行動力を体得する。

【交流予定人数】

	H27								H28								H29											
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe				
学生の派遣	8		8					8	8		8					8	13		12					14				
学生の受入	1		1					3	2		2				4	2		2					8					
	H30								H31								短期派遣では、ボリビア、チリ、ペルーの3カ国において研修を実施することから表の派遣人数は延数を表すものではない。											
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe												
学生の派遣	13		12					14	13		12					14												
学生の受入	2		2					8	2		2					8												

A:アルゼンチン Bo:ボリビア Br:ブラジル Ch:チリ Co:コロンビア M:メキシコ Pa:パナマ Pe:ペルー

1. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(中南米))

「山形・アンデス諸国」ダブル・トライアングル・プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



〈ナスカ研究所における研修〉



〈チリの木材産業に関する研修〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

- 日本人学生の派遣
長期派遣としてペルーに2名を、短期派遣として南米3カ国に13名を派遣した。
- 外国人留学生の受入
長期留学生としてペルーから1名を受け入れた。

〈中南米版〉

	H27															
	計画								実績							
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe
学生の派遣		8		8				8		13		13				15
学生の受入		1		1				3								1

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

学生の短期派遣に関しては、書類選考と面接試験により28名の応募者のなかから、学業成績、語学力、学習意欲を基準にして13名の優秀な派遣学生を決定した。山形大学におけるスペイン語教育、南米3カ国での日本語基礎教育も開始した。ペルーのカトリカ大学との間で、ダブルディグリー制度構築のための準備協定書を締結した。



〈サンアンドレス大学における学生交流〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

プログラムのホームページを日本語、英語、スペイン語の3カ国語で開設・設置することにより、本プログラムに関する情報に学生がアクセスしやすい体制を整えた。またペルー、ボリビア、チリの協定大学に日本語教員を配置し、広報・教育体制を強化した。ペルーのサテライトオフィスに南米側のコーディネーターとして常駐職員を配置し、3か国間の連携を強化して事業を円滑に推進できるようにした。短期派遣では学生選抜後に派遣国事情、治安・安全などに関する事前学習とスペイン語教育を実施した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開、成果の普及

短期派遣の研修成果を、ホームページを通じて3カ国語(日本語、英語、スペイン語)でリアルタイムに情報発信を行った。短期派遣終了後に山形大学の3つのキャンパスにおいて事後報告会を開催し、学生と教職員が参加した。山形大学の第3期中期目標・中期計画に本プログラムの取り組みと推進が盛り込まれ、事業を通じて大学全体の国際化を加速することが明文化された。

■ 特記すべき事項等

平成28年度は短期派遣と短期受入れの合計数を増やすとともに、プログラムの周知と広報を強化することでプログラムに興味・関心のある学生を増やす。

2. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(中南米))

「山形・アンデス諸国」ダブル・トライアングル・プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



〈2016年7月短期受入・米沢〉

短期・長期とも派遣・受入で計画を上回る合計21名の学生が参加した。日本ではスペイン語講座、アンデス諸国では山形大学主催の日本語講座を開設し、それぞれ1年間の語学教育を修了した者が短期プログラムに参加する体制が整った。カトリカ大学との間ではダブル・ディグリー制度構築に向けての準備協定書を締結し、協議を開始した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

カトリカ大学へ長期2名の他、2-3月にアンデス3か国に短期6名を派遣して協定6校全てと交流活動を行った。

○ 外国人留学生の受入

カトリカ大学から長期1名の他、7-8月にアンデス3大学から短期12名を受け入れた。平成29年度は対象を協定6校全てに拡大、当初半年の予定で来日した長期1名は期間を1年に延長した。

〈中南米版〉

	H28															
	計画								実績							
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe
学生の派遣		8		8				8		6		6				8
学生の受入		2		2				4		3		4				7

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

9月にペルー・サテライト・オフィスの開所式をカトリカ大学で行い、南米全体の基本的なとりまとめ・調整を現地で行えるようになった。1月には協定6大学の担当者会議を山形で開催し、プログラムの方向性につき議論した。受入学生選抜ではTV会議システムも用いて面接試験を実施した。



〈2017年1月DTP担当者会議・山形〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

全ての長期受入学生に対して日本語教育の他、インターンシップを実施した。また日本企業への就職を希望する者には、ビジネス関連科目を開講している。派遣学生に対してはスペイン語教育の他、現地の状況を説明する事前学習会を行った。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

公募により3か国語に対応した推進室職員を6月から採用し、10月からは新たにスペイン語講師を採用した。プログラムのホームページで日英西3か国語による情報発信を行い、海外からの問い合わせも増加した。また11月の教職員出張時にはパンフレットを使用して宣伝・普及活動を行った。

■ 特記すべき事項等

事前の語学学習・事後報告会・受入参加といったほぼ1年間にわたる活動を短期留学の条件とすることで、交流が循環的に拡大している。また短期経験者の中から次のステップとして長期を希望する者が出てきている。